

みえん

「東本願寺御影堂大修復」の経済効果

発表者 北洋祐

御影堂大修復と御遠忌特需

2011年は浄土真宗の開祖親鸞の750回忌にあたり、それを記念するために浄土真宗各派では様々な催し物が企画されている(御遠忌法要)。特に今回は浄土真宗大谷派が東本願寺御影堂の修復を292億円という巨額を投じて行うことになり、いつも以上の「御遠忌特需」が生まれると言われている。

この292億円は東本願寺を本山とする寺を通して、全国の檀家から吸い上げられる。つまり、日本中からお金が関西に集まって来るという構造。

この予算のうちの15億円は博報堂など東京の広告代理店に流れる。その他、こまごまとした雑費を引いた残りの250億円が修復にかかる費用。この250億円が建設業に流れることになる。

仮説

京都には大規模な建設業者があまり無いので、そのうちの大部分は大阪の業者に回ってくるのでは？その割合がわかれば、大阪の経済に与える波及効果がわかる！！

歴史的にも、昔から京都の寺院は大阪の職人が作るが多かったらしい。醍醐寺などもそう。今もその構造が残っているんじゃないだろうか。

実際は...

お寺さんのことなのでやっぱり情報開示をあまりしていないため正確なデータ無し。

ただ、設計監理団体の日建設計や、今回の修復のメインである御影堂の瓦葺き替えを請け負った大林組をはじめ、修復に関わるのは東京の業者が多い模様。あとは、「本山御用達」と言われる懇意の業者が挙げられるが、これにも特に大阪の業者が多いと言うわけでもなく、京都や兵庫とどっこいどっこいな印象を受ける。

こうなると、大阪の建設業に流れるのは250億のうちのせいぜい一割か二割かと思われる。(東京へ5割、関西に4割弱、その他へ1割強)

ここでは15パーセントとして、37.5億円が大阪の建設業に流れるとした。
結果は以下の通り。

経済波及効果

	生産誘発額 (億円)	粗付加価値誘発額 (億円)	誘発労働力 (百人)
全部門合計	69.27228719	37.88512732	5.375790458

+37.5

-10

65

27.5

感想

予想が完全に外れてしまって、あまりおもしろい結果になりませんでした。
ただ、寺院の改修という、懇意の業者だとか地元の業者にまかせっきりで、質は高いが採算度外視というイメージが強かったのに対して、意外にも大手ゼネコンによる競争入札などを行っていたり、広告代理店を利用したりと一般企業と変わらないことをしていることに驚きました。大学と同じように、神社仏閣も大部分の支出を地域内ですと言われていますが、それは今回のケースに限っていえばまったく当てはまらないようです。
そして、東京に流れるお金の多いこと。東京一極集中の現状を垣間見ました。

下町の状況 37.5
~~50~~ 16.9
 -2.5